資産運用レポート:現実的な資産運用

1. はじめに

下のチャートは、1984から1989年にかけての日経平均株価です。今では考えられないような右肩上がりを描いています。

経済のパイが拡大して、資産価格の上昇が続いた、古き良き時代における投資の常識は次のと おりでした。

●資産として株を持つ

- ●下げれば買い
- ●持株会に代表される積立投資(ドル・コスト平均法)が資産形成の近道

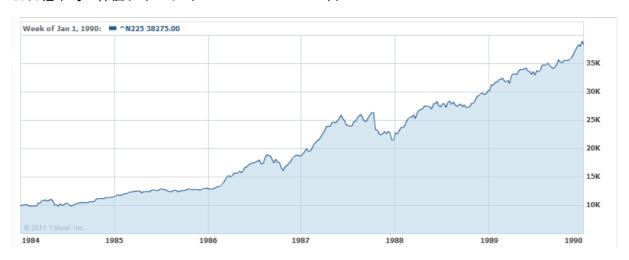
現に、私の新入社員時代(1988年入社)には「持株会の換金額が退職金より多かった」というハッピーリタイアが当たり前だったのです。

しかし、デフレ時代の今日では、この常識が仇となってしまいます。

「そのうち、株価は回復する」と持ち続け、塩漬けにしてしまった方もいらっしゃるのではないでしょうか。

今回の資産運用レポートでは、現実的な資産運用を模索してみます。

★日経平均 株価チャート(1984~1989年)



きれいな右肩上がりを描いています。高値をつかんでも、1年我慢できれば、平均株価ベースでは買値を回復していました。「こんな時代に投資をしたかった」と思わせるチャートです。